



地場産業の景気天気図

業 種		現 状	→	3ヵ月先の 見通し	最近の状況
製 紙	印刷・情報 ・ 新聞用紙		→		8月の国内出荷は、印刷・情報用紙は前年同月比2.6%減と3ヵ月連続の減少となった。新聞用紙は、昨年のリオオリンピックでの増頁分の反動もみられ、同9.0%減と12ヵ月連続で減少した。
	衛生用紙		→		8月の国内出荷は、前年同月比1.6%増と2ヵ月ぶりに増加した。ティッシュなどで品薄状態が続いていたが、ここ最近緩和してきた模様。
	紙加工など		→		紙おむつの生産は、特にベビー用でメイドインジャパンの需要が高まっており、輸出が好調。またフェイスマスクなどもインバウンド需要がけん引し、高い水準で推移している。
一般機械 ・ 金属製品 ・ 鉄 鋼			→		クレーンは、造船所向けの生産・据付がピークを過ぎたものの高操業を維持。建設機械は、国内・海外とも需要の回復が続いており、プラント関係も需要が高い。ロボット用の変速機や加工機械も好調。
造 船	遠 洋 ・ 近 海		→		日本船舶輸出組合によると、9月の輸出船契約実績は20隻・75万9,600総トンとなった。バルカー市況に回復の兆しがみられ、船価水準は低いものの、パナマックスやハンディマックスなど、中型バルカーの引き合いが増えている。
	内 航		→		県内造船所の操業度は総じて高く、貨物船やRORO船、フェリーなどの引き合いが旺盛で、タンカーもLPGやケミカルなどの動きは堅調。石油タンカーは更新・大型化需要が一巡し、引き合いは鈍い。
海 運	遠 洋		→		主力のバルカーはBDI（バルチック海運指数）が10月19日時点で1582となった。ケーブサイズのスロット備船料が20,000ドル/日を超え、再び上昇軌道に乗り騰勢を強めている。中国が鉄鉱石の輸入量を増やせば、市況はさらに上昇するとの見方もある。
	近 海		→		日本向けバイオマス燃料の荷動きの伸びが期待されるなか、市況低迷時に近海船マーケットに参入していたスモールハンディバルカーの船腹量減少もあって、市況は上昇する気配。
	内 航		→		貨物船輸送量は堅調に推移している。8月の輸送量は、鉄鋼が前年同月比4%増、雑貨や自動車なども6～7%以上の伸び。東京五輪開催に向けて、資材・建材の輸送量はさらなる増加が予想される。タンカーは白油（ガソリン・灯油・軽油）が同11%増。

業 種	現 状	→	3ヵ月先の 見通し	最近の状況
タオル		→		9月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は5,260梱で、前年同月比7.1%減となった。前年割れが続いているものの、生産は堅調。
海面養殖		→		マダイの浜値は970円/kg前後で、900円/kg台後半になったのはおよそ11年ぶり。ハマチの浜値も890円/kg前後で、高値での推移が続く。ともに在池尾数が少ないことから、当面底堅い推移が見込まれる。
食 品		→		削り節の原料であるカツオは、バンコク相場（国際相場）では1,900ドル/トン前後、国内相場も220円/kg前後と依然高値が続く。蒲鉾では、主原料である輸入スリ身において、北米産の生産量が想定を下回ったことで、価格は今後やや強含むとの見方が多い。
建 設		→		9月の県内の公共工事請負金額は、「国」で著増となったものの、「県」「市町」「その他の団体」で大幅減となり、前年同月比22.7%減となった。8月の新設住宅着工戸数は「貸家」が前年を下回ったものの、「分譲住宅」と「持ち家」が前年を上回り、前年同月比0.3%増となった。
観 光		→		8月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比11.3%減の90,141人と、8ヵ月連続で前年を下回った。8月の県内主要観光施設の入込み客数は、東予、中予、南予すべての地域で前年を上回り、全体では前年同月比4.4%減と2ヵ月連続で前年を下回った。

	晴れ		晴れ一部曇り		曇り		曇り一部雨		雨
---	----	---	--------	---	----	--	-------	---	---

好 調



不調